

# 順天堂大学医学部附属順天堂医院麻酔科専門研修プログラム

## 1. 専門医制度の理念と専門医の使命

### ① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

### ② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

## 2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

本専門研修プログラムの概要と特徴を以下に述べる。

### 1) 豊富で充実した関連研修病院群

順天堂医院を責任基幹施設とし、専門研修連携施設Aとして順天堂大学医学部附属浦安病院、専門研修連携施設Bとして、順天堂大学医学部附属静岡病院、同練馬病院、同江東高齢者医療センター、奈良県立医科大学附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京医科大学病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、明石医療センター、成育医療研究センター、心臓病センター榊原病院、東京都立墨東病院、がん・感染症センター東京都立駒込病院、東京都保健医療公社豊島病院、東京都保健医療公社東部地域病院、江東病院、上尾中央総合病院、越谷市立病院、静岡県立こども病院、聖路加国際病院、埼玉県立小児医療センター、国立がん研究センター中央病院を含む。これらの施設において、整備指針に定められた麻酔科研

修カリキュラムに基づく教育とトレーニングを提供し、専攻生が十分な知識と技術、そして判断力を備えた麻酔科専門医となるよう育成する。

## 2) 全診療科における十分な手術症例数とさらなる拡張性

本プログラムの手術麻酔に関する臨床トレーニングにおける特徴は、心臓血管外科、小児外科、産科、脳神経外科、呼吸器外科などの専門医取得にあたって必要な必須症例を十分に経験できるだけでなく、麻酔科全般におけるトレーニングを広く受けられることである。順天堂大学附属病院における麻酔科管理症例数も1万件以上あり、プログラム病院群における麻酔科管理症例だけでも年間2万件を超えており、麻酔科学および全般的な麻酔管理を学ぶ条件が整っている。

順天堂医院はメインの手術室20室に加え、帝王切開を中心に行う産科手術室、日帰り手術室が2室ある。心臓血管外科、小児外科、脳神経外科、呼吸器外科などの症例数は全国の大学附属病院の中でもいずれもトップクラスにあり、ロボット支援下手術や新生児の内視鏡肺手術など先進的な医療を多く行っている。心臓血管外科や小児外科の症例数は、国公立の循環器病センターや、小児病院と匹敵するような症例数を実施している。心臓外科・循環器内科が主として使用するハイブリッド手術室や、術中MRI検査も行うことができる脳神経外科用ハイブリッド手術室も新設され、TAVIや脳腫瘍手術のために活用されている。da Vinci手術件数は泌尿器科に加え、呼吸器外科手術で大きく増加している。脊髄脊椎センターの設立も計画され、脊椎手術の集約化も行われる。

## 3) 経験豊かな教育陣とサブスペシャリティ領域のトレーニングの充実

本プログラムの手術麻酔以外の特徴は、麻酔科関連領域および麻酔科サブスペシャリティ領域の研修の充実である。心臓手術は林田眞和教授、小児麻酔は西村欣也教授を中心とした指導体制の下にトレーニングが実施される。産科麻酔は、角倉弘行教授を中心に産科麻酔チームを形成し、帝王切開の麻酔はもちろん、無痛分娩に対しても365日24時間対応している。呼吸器外科では、高度な手術が多く実施されているが、石川晴士教授、川越いづみ准教授を中心に一側肺換気、気管支ファイバー技術などのトレーニングが行われている。ペインクリニックでは井関雅子教授を中心に豊富な症例を基に幅広い臨床トレーニングを行っている。順天堂医院におけるペインクリニックの症例数は全国有数である。平成28年度の初診者は600名、再診患者は15000名を超えている。透視下ブロックは768件、超音波ガイド下神経ブロックを含む非透視下ブロック総数は1万7百件を超えている。また、脊髄刺激電極植え込みなどの先進的な医療を行うほか、漢方なども取り入れている。研究成果は国外でも高い評価を得ている。また、希望すれば緩和ケアのトレーニングも受けることができる。

集中治療室は佐藤大三教授や三高千恵子特任教授を中心に、集中治療のトレーニングが行われている。

小児の複雑心臓手術や小児集中治療については、成育医療研究センターなどの関連研修施設で受けることができる。集中治療は、順天堂医院のほか、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センターや、奈良県立医科大学附属病院を含む関連研修施設での研修が可能である。ペインクリニック、集中治療などの麻酔科のサブスペシャリティ領域での専門医資格を取得することも可能である。サブスペシャリティを学ぶことにより、麻酔科全般の知識や技量も広く、深くなる。専門研修連携施設では、専門的に培った能力を、広く一般的に応用するような研修を目指している。それにより、異なった術式への対応や、システムへ対応できる柔軟な能力を身につけることができる。

#### 4) Scientific mindをもった麻酔科専門医の養成

本プログラムではscientific mindをもった麻酔科専門医の養成も目指している。生涯教育のためには、論文や教科書を読みこなし正しく評価するための科学的な視点が必要である。豊富な臨床例を基にした臨床論文のほか、基礎研究室における基礎研究、またそれらの橋渡しとなるtranslational researchのトレーニングも充実している。麻酔科専門医となるための臨床的なトレーニングに加え、医学博士の学位を取得するためのプログラムも備えており、両者を同時に取得することも可能とするようなシステムとなっている。2017年度には8名が大学院に入学し、うち1名は2018年度から米国留学予定である。2018年度には10名の専攻生が本プログラムを選択し、多くが大学院入学志望である。順天堂大学の基礎医学教室だけでなく、星薬科大学薬理学教室などのほか、国内留学として他大学や他県の研究所で基礎研究の指導を受けることができる。論文はインパクトファクターの高い国際誌にも掲載されている。

#### 5) 地域医療への貢献

順天堂静岡病院は東海地区においてへき地医療を担っている。そのほか、静岡こども病院、榊原病院など地方の特殊領域の管理が学べる病院との連携も組んでいる。

#### 6) 国際的視野をもった麻酔科専門医の養成、ECFMG取得大学院コースの設置

本プログラムでは国際的な視野を得るための機会も豊富にある。また、大学院に進学し、しかも法人からの給与を得ながらUSMLE, ECFMGに合格・資格取得するコースも準備されている。海外における学会発表のほか、希望者は研修終了後に海外留学も可能である。現在1名がカナダに臨床留学中であり、2018年度は1名が米国に研究留学をする。大学院ECFMG取得コースの場合には、在学中に半年程度の短期留学も認められている。

#### 7) 法人の麻酔科医の重要性についての理解と女性麻酔科医が働きやすい環境

麻酔科医の仕事の重要性とハードさについては法人も理解しており、さまざまな優遇処置もとられている。大学院生に対しても給与が支払われる。女性麻酔科医に対しては、産休、育休などの確保、当直など夜間勤務の免除・軽減などを行っているほ

か、非常勤医としての勤務など産休・育休後の復帰が容易となるような勤務体制もとっている。

#### 8) 個人の求めるキャリアパスに応じた対応

以上をまとめると、scientific mindをもった麻酔科専門医となるだけでなく、さらにペインクリニックや集中治療などのサブスペシャリティの専門医資格を得たり、学位を取得したり、海外留学をしたりするなど、各人の求めるキャリアパスに応じた教育やトレーニングを提供することが本プログラムの大きな特徴である。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記載した。

### 3. 専門研修プログラムの運営方針

- 1) 責任基幹施設である本施設における研修は 1～4 年とし、専門研修連携施設 A および B における研修は合計で 1～3 年とする。
- 2) 目標症例数はローテーションする診療科の麻酔（長時間手術 1～2 例のものから、短時間手術 4～6 例/日）や、ペインクリニックや集中治療のローテーション期間にも影響されるが、順天堂医院においては年間 300～400 例とする。
- 3) 麻酔科専門医取得に必要な症例数は本施設ですべて提供できる。個々の麻酔法や麻酔に対する考え方などは施設や外科系診療科の方針により異なる場合がある。必須症例を満たすだけでなく、幅広い麻酔科研修を受けられるよう専門研修連携施設とのローテーションを行う。順天堂大学附属病院における麻酔科管理症例は年間 2 万件を超えており、十分な麻酔経験を積むことができる。
- 4) 順天堂医院および専門研修連携施設 A におけるローテーションは 1 年単位を基本とするが、個人の希望や施設の事情によっては 6 か月のローテーションも受け入れる。専門研修連携施設 B における研修は原則として 6 か月を基本単位とし、個人の希望および研修内容により 6 か月ごとの延長を行う。
- 5) 本プログラムに学ぶすべての専攻生が、経験目標として提示されている特殊麻酔症例数のトレーニングを受けられるようにローテーションを構築する。個人のトレーニングの実施状況や目標到達状況に応じた教育とトレーニングが受けられるよう、順天堂医院および専門研修連携施設 A・B が強い連携を持ってローテーションプログラムを定期的に検討し、改善に取り組むとともに、専攻生の希望と到達目標の達成度に合ったローテーションプログラムを組む。
- 6) 臨床および基礎研究を行い、国内・国際学会での発表や、論文作成ができるように指導する。
- 7) ペインクリニック、緩和ケア、集中治療などのサブスペシャリティのトレーニングを提供する。希望者にはそれぞれの領域における専門医取得ができるようにト

レーニングを実施する。

- 8) 研修期間終了後は、他の領域を含む専門医資格や学位に応じて大学・病院スタッフとして採用する道が開けている。

#### 研修実施ローテーション例

以下に研修ローテーションの例を提示する。個人の事情・希望に応じて対応するため、バリエーションは多い。将来の専門分野を念頭に置いたプログラムを構成する。1年のローテーションを基本単位として表に示すが、前述のように6か月を単位とした研修も認める。学位取得のための大学院入学や、海外留学などをする場合には、研修期間は入学時や留学期間などにより変更する。また、順天堂医院や所属する専門研修連携施設で研修中でも、プログラム内の専門関連研修施設等で週1日勤務することも可能である。

##### 1) 施設別

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	順天堂医院	順天堂医院	順天堂医院（ペインクリニック）	順天堂医院
B	順天堂医院	順天堂医院	順天堂医院（集中治療）	専門研修連携施設
C	順天堂医院	順天堂医院	専門研修連携施設（小児麻酔）	専門研修連携施設
D	順天堂医院	専門研修連携施設	専門研修連携施設	専門研修連携施設（集中治療）
E	順天堂浦安病院	順天堂浦安病院	順天堂浦安病院	順天堂医院（産科麻酔）
F	順天堂静岡病院	順天堂静岡病院	順天堂医院（心臓麻酔。胸部外科麻酔、小児麻酔）	順天堂医院
G	順天堂練馬病院	順天堂医院	順天堂医院	順天堂練馬病院
H	順天堂医院	順天堂医院	順天堂高齢者医療センター	順天堂静岡病院

I	順天堂医院	専門研修連携施設	奈良県立医科大学 付属病院	順天堂医院
J	順天堂医院	順天堂静岡病院	横浜市立大学附属 病院（集中治療）	順天堂医院
K	順天堂医院	順天堂浦安病院	順天堂医院	成育医療研究 センター・静岡 県立こども病 院
L	順天堂浦安病院	順天堂医院	心臓病センター榊 原病院（心臓麻 酔）・上尾中央病院	順天堂医院、埼 玉県立小児医 療センター
M	順天堂医院	順天堂医院	都立墨東病院・駒 込病院	順天堂浦安病 院

## 2) 順天堂医院における月別ローテーション例

基本的には24～30か月を基本としてローテーションを構成する。専門研修連携施設A・Bからのローテーションの場合には、心臓麻酔、小児麻酔、産科麻酔、脳神経外科麻酔、ペインクリニック、集中治療などの重点領域のトレーニングを集中的に実施する。

以下に順天堂医院で2年間研修する場合のローテーション例を示す。

ローテーションは原則1～2か月単位とする。2か月のローテーションの場合は、連続ではなく1か月ずつとする場合もある。1か月目は比較的簡単な手術、軽症例とし、2か月目にはより複雑な手術や重症例を担当するようにする。当直時には、すべての診療科の緊急手術に対応できることを目標としてトレーニングを行う。

プラン	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月	6か月
A	婦人科、耳鼻科、眼科、泌尿器科、形成外科、低侵襲外科	整形外科、小児外科、肝胆膵外科、大腸肛門外科、産科	呼吸器外科、食道胃外科、心臓血管外科、肝胆膵外科、脳神経外科	小児外科（新生児を含む）、心臓血管外科、呼吸器外科	産科	集中治療
B	同上	同上	同上	同上	ペインクリニック	緩和ケア

C	同上	同上	同上	同上	集中治療	心臓血管外科
D	同上	同上	同上	同上	呼吸器外科	集中治療
E	同上	同上	同上	小児外科	心臓血管外科	血管外科

#### 4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：10,354症例

本研修プログラム全体における総指導医数：37.5名

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	1165症例
帝王切開術の麻酔	960症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	690症例
胸部外科手術の麻酔	626症例
脳神経外科手術の麻酔	760症例

##### ① 専門研修基幹施設

##### 1) 順天堂大学医学部附属順天堂医院（以下、順天堂医院）

研修プログラム統括責任者：

稲田英一

専門研修指導医：稲田英一（麻酔全般）

西村欣也（小児麻酔）

林田真和（心臓血管外科麻酔）

井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）

佐藤大三（麻酔全般、集中治療）

角倉弘行（産科麻酔）

水野樹（麻酔全般）

石川晴士（胸部外科麻酔）

三高千恵子（集中治療）

川越いづみ（呼吸器外科麻酔）

竹内和世（麻酔）

工藤治（麻酔）

原厚子（脳神経外科麻酔、ペインクリニック）

千葉聡子（ペインクリニック）

山本牧子（心臓血管外科麻酔）  
掛水真帆（心臓血管外科麻酔）  
玉川隆生（ペインクリニック）  
門倉ゆみ子（麻酔）

専門医：片岡久実（麻酔）  
河合愛子（ペインクリニック）  
石井智子（ペインクリニック）  
井上理恵（産科麻酔）  
岡原祥子（産科麻酔）  
福田征孝（麻酔）  
河内山宰（麻酔）

麻酔科認定病院取得認定病院番号 12

特徴：手術麻酔全般のほか、ペインクリニック、緩和ケア、集中治療のローテーションも可能である。

麻酔科管理症例数 10,354症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	400症例
帝王切開術の麻酔	200症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	300 症例
胸部外科手術の麻酔	250 症例
脳神経外科手術の麻酔	250症例

## ② 専門研修連携施設A

1) 順天堂大学医学部附属浦安病院（以下、浦安病院）

研修実施責任者：神山洋一郎

専門研修指導医：神山洋一郎

大和田哲郎

渡部晃士

神道具也

専門医：前田剛

森悠

保利直助



山根由唯

認定病院番号 342

特徴：必須症例を含む手術麻酔およびペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 5,233症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	200症例
帝王切開術の麻酔	200症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	40 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

### ③ 専門研修連携施設B

1) 順天堂静岡病院（以下、静岡病院）

研修実施責任者：岡崎敦

専門研修指導医：岡崎 敦（ペインクリニック、緩和）

尾前 毅（心臓血管麻酔）

久米村正輝（神経ブロック）

洪景 都（神経ブロック）

認定病院番号 422

特徴：3次救急救命センターをもつ静岡県東部ドクターヘリ基地病院である。

麻酔科管理症例数 4,426症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	40症例
帝王切開術の麻酔	270症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	135症例
胸部外科手術の麻酔	180 症例
脳神経外科手術の麻酔	260症例

2) 順天堂大学医学部附属東京江東高齢者医療センター（以下高齢者医療センター）

研修実施責任者：山口敬介

専門研修指導医：菅澤佑介

斎藤貴幸

田中英文  
専門医： 河邊千佳  
松本園子  
飯田史絵

認定病院番号 1057

特徴：麻酔およびペインクリニックの研修が可能。高齢者の麻酔が多い。

麻酔科管理症例数 1,252症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

### 3) 順天堂大学医学部附属練馬病院（以下練馬病院）

研修実施責任者：菊地利浩（麻酔）

専門研修指導医：菊地利浩

田邊豊（麻酔，ペインクリニック）

岡田尚子（産科麻酔）

専門医：天野功二郎（麻酔）

尾堂公彦（麻酔）

認定病院番号：1215

特徴：術後鎮痛・ペインクリニック・緩和医療

麻酔科管理症例数 3,897症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	200症例
帝王切開術の麻酔	100症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	100 症例
脳神経外科手術の麻酔	100症例

### 4) 上尾中央総合病院（以下上尾中央病院）

研修実施責任者：平田一雄

専門研修指導医：平田一雄（麻酔）

神部芙美子

安田信彦  
小林恵子  
奈良 徹  
田上大祐  
唐崎元一郎

認定病院番号 750、1996 年

特徴：埼玉県央における地域医療を担っており、幅広く麻酔経験を積むことが可能。

麻酔科管理症例数 5,105 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開術の麻酔	5症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	5 症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	5症例

5) 奈良県立医科大学病院（以下、奈良県立医大病院）

研修実施責任者：川口 昌彦

日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：

川口 昌彦  
井上 聡己（集中治療）  
渡邊 恵介（ペインセンター）  
田中 優  
林 浩伸  
恵川 淳二  
阿部 龍一  
新城 武明  
藤原 亜紀  
西和田 忠  
蓮輪 恭子  
寺田 雄紀  
岡本 亜紀  
木本 勝大  
園部 奨太

福本 倫子  
植村 景子  
紀之本 茜

専門医：

西村 友美  
北村 絢  
榎本 純子  
奥田 千愛  
谷 季恵  
椿 康輔  
赤崎 由佳

認定病院番号：51

### 施設の特徴

奈良医大は大和三山に囲まれた神秘的な歴史とパワーを有する地であり、建国の地とされる橿原神宮のすぐそばに位置しています。自然に恵まれたなごやかなところですが、大阪などへのアクセスも良好で、大阪からの通勤も可能です。

モットーは、“個性重視”、“時代にあった新たな挑戦”そして“良好なチームワーク”です。仲良く、心地よく、喜びや充実感を得られればと考えています。手術麻酔だけでなく、集中治療、ペインクリニック、緩和医療をバランスよく研修することができます。周術期管理センター、麻酔科全員参加型の集中治療管理、ペインセンター、緩和ケアセンターなど、専用の設備も充実しています。麻酔専門医だけでなく、サブスペシャリティの専門医やの取得もサポートさせていただきます。

研究にも従事し、リサーチマインドも身につけていただきます。臨床研修中であっても臨床研究や基礎研究を実施することは可能です。研究にあたっては、研究計画の立案、実施、結果の解析、発表、論文作成などの指導を受けることができます。大学院を選択すれば、医学博士を取得することも可能です。奈良橿原の地で世界に向けた夢を語り合い、日々の診療・教育・研究を楽しむことができる仲間を募集しています。

麻酔科管理症例数 5153 症例

	本プログラム
小児（6歳未満）の麻酔	256 症例
帝王切開術の麻酔	309 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	212 症例
胸部外科手術の麻酔	244 症例
脳神経外科手術の麻酔	395 症例



6) 東京医科歯科大学医学部附属病院 (麻酔科認定病院番号：15)

研修プログラム統括責任者：内田篤治郎

専門研修指導医：内田篤治郎 (麻酔)

倉田二郎 (麻酔、ペインクリニック)

舩田昭夫 (麻酔、ペインクリニック)

田中直文 (麻酔)

南浩太郎 (麻酔)

専門医：山本寛人 (麻酔)

大森敬文 (麻酔)

篠田健 (麻酔)

深川亜梨紗 (麻酔)

竹本彩 (麻酔)

石橋智子 (麻酔)

山本雄大 (麻酔)

田中愛美 (麻酔)

北條亜樹子 (麻酔)

塩田修玄 (集中治療)

丸山史 (集中治療)

増田孝広 (集中治療)

特徴：心臓手術・胸部外科手術をはじめとする専門医研修プログラムにおける特殊麻酔症例が豊富に経験でき、近年、帝王切開の件数も増加している。また、再建を伴う頭頸部外科手術症例や頸椎手術の症例も豊富なことから、気道管理を学ぶ上でも症例が豊富である。整形外科や形成外科における超音波ガイド下の末梢神経ブロック症例も定着してきており、研修の機会が十分に確保されている。ICU およびペインクリニックの研修も可能。

麻酔科管理症例数 5,410 症例

	本プログラム分
--	---------

小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

7) 横浜市立大学附属病院（以下横浜市大病院）

研修実施責任者： 後藤隆久

専門研修指導医： 後藤 隆久(麻酔)

水野 祐介(麻酔)

藤本 啓子(麻酔)

菊池 龍明(医療安全・麻酔)

入江 友哉(麻酔・心臓麻酔)

水原 敬洋(麻酔・臨床統計)

岡村 健太(麻酔・心臓麻酔)

西村 祥一(麻酔・救急)

木下 充子(麻酔)

長嶺 祐介(麻酔・心臓麻酔)

柏木 静(麻酔)

藤本 寛子(麻酔)

大川 卓巳(麻酔)

入澤 朋子(麻酔)

北原 雅樹(ペインクリニック)

富永 陽介(ペインクリニック・麻酔)

土屋 智徳(ペインクリニック・麻酔)

山口 修 (集中治療)

高木 俊介(集中治療・救急)

横瀬 真志(集中治療・心臓麻酔)

山口 嘉一(集中治療)

菅原 陽(麻酔・集中治療)

朝倉 彩子(麻酔)

玉田 尚(麻酔・救急)

専門医： 松田 優子(麻酔)

東條 健太郎(麻酔)

吉田 輔(集中治療)  
 濱田 貴子(集中治療)  
 西周 祐美(ペインクリニック・麻酔)  
 菊池 賢(麻酔)  
 早川 翔(集中治療)

病院認定番号 72

特徴：大学病院本院にふさわしい大手術や、状態の悪い患者が多く、麻酔科医としてチャレンジングな症例を多く経験できる。神経ブロックも積極的に行っている。集中治療部は麻酔科の専属チームが常駐。臨床研究にも力を入れ、ヨーロッパ麻酔学会に毎年複数の演題を出している。手術室から東京湾が見え、近隣には八景島があるなど、最高の環境である。

麻酔科管理症例数 5,031 例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

8) 東京医科大学病院（以下東京医大病院）

研修プログラム統括責任者：内野博之

専門研修指導医：内野 博之（麻酔，ペインクリニック，集中治療）

大瀬戸 清茂（ペインクリニック，麻酔）

田上 正（緩和医療，麻酔）

今泉 均（集中治療，麻酔）

中澤 弘一（麻酔，集中治療）

荻原 幸彦（麻酔，集中治療）

福井 秀公（ペインクリニック，麻酔）

柿沼 孝泰（麻酔）

関根 秀介（集中治療，麻酔）

板橋 俊雄（麻酔）

専門医：安藤 千尋（麻酔，心臓麻酔）

濱田 隆太（麻酔）

清川 聖代 (麻醉)  
 坂本 美紀 (麻醉)  
 沖田 綾乃 (麻醉)  
 齊木 巖 (麻醉)  
 魚島 直美 (麻醉)  
 西山 遼太 (麻醉)

認定病院番号 28

特徴：

麻醉，ペインクリニック，集中治療，緩和医療の領域を幅広く学ぶ事が出来る。

病院認定番号 28

麻醉科管理症例数 6,108症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	0症例
帝王切開術の麻醉	0症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻醉	0 症例
脳神経外科手術の麻醉	0症例

9) 国立成育医療研究センター（以下成育医療センター）

研修実施責任者： 鈴木康之

専門研修指導医： 鈴木康之（麻醉、集中治療）

田村高子（麻醉）

糟谷周吾（麻醉）

遠山悟史（麻醉）

佐藤正規（麻醉）

蜷川 純（麻醉）

専門医： 山下陽子（麻醉）

久保浩太（麻醉）

行正 翔（麻醉）

古田真知子（麻醉）

青木智史（麻醉・集中治療）

認定病院番号 87、2002年



特徴：国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）および周術期管理を習得できる。

- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- ・小児肝臓移植（生体、脳死肝移植）、腎移植の麻酔、周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる。
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

麻酔科管理症例数 5,201症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	100症例
帝王切開術の麻酔	20症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10 症例
胸部外科手術の麻酔	5 症例
脳神経外科手術の麻酔	10症例

#### 10) 静岡県立こども病院（以下静岡こども病院）

研修実施責任者：奥山克己

専門研修指導医：奥山克己

渡邊朝香

専門医： 石田千鶴

認定病院番号 183 1979年

特徴：術前から患児の不安を取り除く配慮や、術後鎮痛への十分な配慮を経験できる。  
術中術後鎮痛のため積極的に脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロックを行っている。  
さらに新生児手術、心臓血管外科手術も多数経験可能。

麻酔科管理症例数 2,848症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	150症例
帝王切開術の麻酔	15症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20 症例
胸部外科手術の麻酔	1 症例
脳神経外科手術の麻酔	10症例

11) ★埼玉県立小児医療センター（以下小児医療センター）

研修実施責任者：蔵谷紀文

専門研修指導医：蔵谷紀文（小児麻酔）

濱屋和泉（小児麻酔）

佐々木麻美子（小児麻酔）

釜田峯都（小児麻酔）

大橋 智

石川玲利

石田佐知

寺端昭博

専門医：古賀洋安

小原崇一郎

高橋京助

成田湖筈

認定病院番号：399

特徴：小児麻酔全般にわたっての研修が可能である。

麻酔科管理症例数 3,328症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

12) 東京都保健医療公社豊島病院（以下、豊島病院）

研修実地責任者：吉岡斉

専門研修指導医：吉岡斉（麻酔、ペインクリニック）

吉川晶子（麻酔、ペインクリニック）

小出博司（麻酔）

専門医：小川 敬（麻酔）

篠崎正彦（麻酔）

認定病院番号：899

特徴：都北西部の地域医療を担う施設。産科麻酔（和痛分娩を含む）、ペインクリニックと緩和医療のローテーションが可能である。

麻酔科管理症例数2,472症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

13) 社会医療法人社団 順江会 江東病院（以下、江東病院）

研修実施責任者：三浦邦久（麻酔、ペインクリニック）

専門研修指導医：三浦邦久（麻酔、ペインクリニック）

専門医：岩崎紗世（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：1259、2007年

特徴：江東病院は365日24時間体制で小児救急を行っており、麻酔科管理症例数は1200を超えており、全身麻酔、区域麻酔の習熟に適している。またペインクリニック、緩和医療も行っている。

麻酔科管理症例数 1, 299症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	15症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

14) 越谷市立病院（以下、越谷市立病院）

研修実施責任者：

林健児（麻酔、ペインクリニック）

専門研修指導医：

林健児（麻酔、ペインクリニック）

伊藤雄策（麻酔、ペインクリニック）

認定病院番号：223

特徴：産婦人科症例数は1300を超えており、硬膜外ブロックの習熟に適している。整形外科の腰椎麻酔も多いので数多く経験できる。またペインクリニックの研修もできる。

麻酔科管理症例数2,819症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	150症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	100症例

15) 明石医療センター（以下明石医療センター）

研修実施責任者：坂本元

専門研修指導医：坂本元

河合 建

多田羅康章

益田佳世子

服部洋一郎

認定病院番号：1166

特徴：必須症例を含む手術麻酔およびペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 2,866症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20 症例
胸部外科手術の麻酔	15 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

16) 聖路加国際病院（以下聖路加病院）

研修実施責任者：長坂安子

日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：

長坂安子（麻酔、心臓麻酔）

藤田信子（麻酔、心臓麻酔）  
 林督人（麻酔 区域麻酔、ペインクリニック）  
 佐久間麻里（麻酔、救急）  
 篠田麻衣子（麻酔、区域麻酔）  
 菅波梓（麻酔、産科麻酔）  
 岡部宏文（麻酔）

専門医：林怜史（麻酔、心臓麻酔）  
 中路佳美（麻酔）

麻酔科認定病院番号：249

### 施設の特徴

当院の手術室は14室あり、心臓外科、小児外科、胸腹部、脳神経、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Da Vinci手術など）も含めた、幅広い症例が経験できる。米国での麻酔臨床業務経験者も3名（非常勤医を含む）在籍しており、世界標準の麻酔を提供し、該当者には留学への指導も行っている。

挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。

麻酔科管理症例数 6686症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

### 17) 東京都立墨東病院（以下、都立墨東病院）

東京都立墨東病院（以下、都立墨東病院）

研修プログラム統括責任者：鈴木健雄

専門研修指導医：鈴木健雄（麻酔、ペインクリニック）

高橋英督（麻酔）

三上久美子 (麻酔、ペインクリニック)  
 佐藤千穂子 (麻酔)  
 高田朋彦 (麻酔、ペインクリニック)  
 永迫奈己 (麻酔)  
 後藤尚也 (麻酔)  
 平野敦子 (麻酔、ペインクリニック)  
 専門医： 千田麻里子 (麻酔、ペインクリニック)  
 桐野若葉 (麻酔)  
 永村陽子 (麻酔)  
 河村尚人 (麻酔)  
 吉村敦 (麻酔)  
 益田友里 (麻酔)

麻酔科認定病院番号 第26号

特徴：救命救急センターを含む「東京ER・墨東」を運営し、周産期母子医療や精神科救急医療など救急医療のセンター的機能を担う地域中核病院である。

ほぼ全ての診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できる。

緊急手術が多く、救急診療における麻酔管理を学べる。

ペインクリニック研修が行える。

麻酔科管理症例数 4,419 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

18) 東京都立駒込病院（以下、都立駒込病院）

研修実施責任者：佐藤 洋

専門研修指導医：佐藤 洋 (麻酔、ペインクリニック)

鈴木尚生子 (麻酔、ペインクリニック)

佐藤和恵 (麻酔)

霜鳥久 (麻醉)  
 田島明子 (麻醉)  
 専門医： 篠浦 央 (麻醉)  
 宮本 由利絵 (麻醉)  
 大橋 薫 (麻醉)  
 松岡 芙美 (麻醉)  
 北澤 みずほ (麻醉)

麻醉科認定病院番号：14

特徴：当院はがん専門病院であるため、基本的にはがん患者の手術における術前評価および術中術後管理が研修の中心となる。外科系各科の高度専門手術や緊急手術に対して安全な麻醉管理を提供できる能力を育成する。当院に診療科のない心臓血管外科、産科、小児外科などの麻醉管理は専門研修連携施設での研修を加えて、より専門的な知識と経験を得られるようにしている。また、麻醉科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修（緩和ケア診療）などを行える環境を整えている。通常全身麻酔・硬膜外麻酔・くも膜下脊髄麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の特種麻酔を担当医として経験する。

- ・胸部外科手術の麻酔 呼吸器外科手術、食道外科手術など
- ・脳神経外科手術の麻酔 覚醒下脳腫瘍摘出術など
- ・整形外科の麻酔 脊髄腫瘍、術中照射の麻酔
- ・泌尿器科の麻酔 ミニマム創内視鏡手術

麻醉科管理症例 3,854 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	300 症例
脳神経外科手術の麻酔	113症例

19) 東京都保健医療公社東部地域病院（以下東部地域病院）

研修実施責任者：

本山慶晶 (麻醉、ペインクリニック)

専門研修指導医：

本山慶昌 (麻酔、ペインクリニック)  
 浦里裕子  
 専門医： 森かおり

麻酔科認定病院番号： 第659号

特徴：がん治療をはじめとした高度専門医療から、二次救急、まで多岐にわたる豊富な症例を経験できる。さらに他院研修として、小児麻酔専門研修より専門的な知識と経験を得られるようにしている。また、麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修などを行える環境を整えている。

東部地域病院、関連研修施設の都立墨東病院、都立小児総合医療センター、都立駒込病院、都立広尾病院、都立大塚病院、都立多摩総合医療センター、都立神経病院、公社荏原病院、公社豊島病院、公社多摩北部医療センター、順天堂大学附属順天堂医院、葛飾ハートセンターにおいて、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科管理症例 1,780 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	15症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	15症例

20) 心臓病センター榊原記念病院（以下榊原記念病院）

研修実施責任者：石井智子

専門研修指導医：

石井智子  
 岡田修  
 三浦由紀子

認定病院番号 1142

特徴：心臓血管麻酔に特化した研修が可能である。



麻酔科管理症例数 1,091例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	200 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

21) 公立大学法人横浜市立大学附属病院市民総合医療センター（以下、横浜市民総合医療センター）

研修実施責任者 佐藤 仁

専門研修指導医：講師 佐藤 仁（臨床麻酔・救急）

大塚 将秀（集中治療）

北原 雅樹（ペイン）

川上 裕理（臨床麻酔・心臓麻酔）

水谷 健司（臨床麻酔）

田澤 利治（緩和医療・ペイン）

小島 圭子（ペイン）

菅原 泰常（臨床麻酔）

刈谷 隆之（集中治療）

富永 陽介（ペイン）

内本 一宏（集中治療）

青木 真理子（集中治療・臨床麻酔）

宮崎 敦（臨床麻酔・心臓麻酔）

美濃口 和洋（臨床麻酔）

藤井 ありさ（臨床麻酔）

専門医：増渕 哲人（臨床麻酔・心臓麻酔）

末竹 荘八郎（臨床麻酔）

小倉 玲美（集中治療・麻酔）

櫻井 龍（臨床麻酔・心臓麻酔）

柳泉 亮太（緩和ケア・ペインクリニック）

遠藤 大（臨床麻酔）

江渕 慧悟（臨床麻酔・心臓麻酔）

浅見 優(臨床麻酔)  
 松尾 史郎 (臨床麻酔・心臓麻酔)  
 横山 暢幸 (集中治療・麻酔)  
 中島 大介 (臨床麻酔)  
 越後 結香 (臨床麻酔)

認定病院番号：593

特徴：3次救命救急センターと神奈川県総合周産期センターの指定を受ける、横浜市中心部の大学附属病院で、救急、周産期、循環器の症例が多い。ハイブリッド手術室をもち、TAVIも行っている。ここの集中治療部も麻酔科医の専属チームが常駐。2017年度からは集学的慢性痛センターもできる予定。

麻酔科管理症例数： 5,738例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

・22) 国立がん研究センター中央病院

研修実施責任者：佐藤哲文

専門研修指導医：佐藤哲文 (麻酔集中治療)

松三絢弥 (麻酔集中治療)

谷口 新 (麻酔集中治療)

川口洋佑 (麻酔集中治療)

大額明子 (麻酔)

認定病院番号43

特徴：集中治療室での術後管理を含む悪性腫瘍手術患者の周術期管理の研修ができる

麻酔科管理症例数 4,957症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25症例
帝王切開術の麻酔	0症例

心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0症例
胸部外科手術の麻酔	25 症例
脳神経外科手術の麻酔	10症例

## 5. 募集定員

9名 (参考)

## 6. 専攻医の採用と問い合わせ先

### ① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに(2016年9月ごろを予定)志望の研修プログラムに応募する。

### ② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせ先は、順天堂大学医学部附属順天堂医院麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

順天堂大学医学部附属順天堂医院 麻酔科・ペインクリニック 主任教授  
稲田英一

東京都文京区本郷3-1-3

TEL 03-3813-8111 (代表)

E-mail e-inada@juntendo.ac.jp

Website <http://www.juntendo.ac.jp/hospital/clinic/masui/>

## 7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

### ① 専門研修で得られる成果 (アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨牀的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

## ② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

## ③ 麻酔科専門研修の経験目標

### 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

## 8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。Generalistであることに加え、自分の得意とする領域を持ち、そこでの深い知識と高い技量や判断力を持ち、学会認定資格を得られるようにする。生涯教育ができる基礎的な知識や技量を身に着けるようにする。

### 専門研修1年目

患者の状態や手術に応じた術前評価、手術麻酔に必要な基本的な手技と、解剖学、薬理学、生理学、病態生理学などの専門知識を修得することを目的とする。気管挿管、声門上器具の挿入、気管支ファイバーによる挿管、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、動脈カテーテル挿入、神経ブロックなどの基本的手技を習得する。術前から術後に至るまでの周術期管理の流れを理解する。比較的侵襲の小さな手術を行う診療科中心に、1～2か月のローテーションを行う。対象とする患者も、比較的軽症の患者とする。

### 専門研修2年目

1年目に習得した技能の発展、知識をより深い実践的なものとする。1年目で修得した技能を磨き、知識をさらに深いものとする。1年目と同様に1～2か月ごとの診療科別ローテーションを行う。術後集中治療管理が必要になるような比較的侵襲の大きな手術を行う診療科のローテーションが中心となる。侵襲的な手技や、肺動脈カテーテル挿入や経食道心エコー法などより高度の技能を要する手技を習得し、認定資格を得るように

するようにする。手術麻酔のほか、1～2か月単位でペインクリニックや集中治療のローテーションを行い、総合的な力を習得する。

#### 専門研修3年目

2年目までは総合的な研修を実施するが、3年目は専攻医の興味や、将来への希望を活かして、心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、新生児を含む小児手術や、集中治療などのトレーニングを受ける。希望に応じてペインクリニックや緩和ケアなどのトレーニングも3～6か月の単位で行う。将来の subspecialty につながるローテーションとする。学会発表などができるようにする。研究志向がある場合は、大学院における研究なども実施する。留学志望がある専攻医にも対応したトレーニングを行う。

#### 専門研修4年目

これまでに受けたトレーニングをより発展したものとし、心臓血管外科麻酔や産科麻酔、集中治療、ペインクリニックなどのトレーニングを6～12か月行う。将来、generalist を目指す場合には、順天堂医院やプログラム内の病院で、多くの診療科の麻酔に関してトレーニングを受け、トラブルシューティングを含め、自分で実施する実力をつける。トレーニングを受ける一方、指導的な役割も一部果たすフェローとしてトレーニングを受ける。教育力をつけるとともに、将来の専門医として自立し、生涯教育ができるようにする。研究遂行能力や論文作成能力を習得する。

### 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

#### ① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

#### ③ 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわし

い①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。メディカルスタッフによる評価も行う。

## 9. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

## 10. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

## 11. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

### ① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

### ② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告

できる。

#### ④ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

## 12. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての静岡病院のほか、埼玉県の上尾中央病院や、その地域において小児麻酔を実施する成育医療センター、静岡こども病院、埼玉小児医療センターなど幅広い連携施設が入っている。地域で先進的な心臓血管外科手術を行う榊原病院なども含まれている。

医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

本プログラムに含まれるすべての病院で十分な指導医の数と指導体制が整っている。しかし専攻生が、指導体制が十分でないと感じた場合は、研修プログラム統括責任者に対して直接、文書、電子媒体などの手段によって報告することができる。

その内容に応じて研修プログラム統括責任者および管理委員会は、研修施設およびコースの変更、研修連携病院からの専門研修指導医の補充、専門研修指導医研修等を検討する。